

白クローバ品種の使い分け

白クローバは主に放牧地に用いられているが、世界各国には非常に多数の品種があり、これらを一般に次の3グループに分けている。

- ① ラデノ型……葉が巨大で草丈高く最も多収。刈取利用にも適する。
- ② 野生型……草丈低く匍匐茎は細く葉は密生して小さい。
- ③ 中間型……上記二型の中間であり、ヨーロッパ、ニュージーランド等の放牧地に用いられ、品種数も多い。

型	品 種 名	特 性							収 量	用 途	
		草高	葉の大きさ	再生力	蔓延性	密度	耐寒性	耐暑性		放牧	採草
中間型	ニュージーランド・ホワイト	中	中	強	強	高	中	中	中	○	
〃	ミルカ	中	中	中	強	高	強	小	中	○	
ラデノ型	カリフォルニア・ラデノ	高	大	強	中	中	中	中	大	○	○

★ニュージーランド・ホワイト

繁茂力旺盛で密生し多収であり、暖地寒冷地いずれでも広く利用されているが、高温乾燥による収量低下が目立ち、病害の発生もともなうので、東北地方、北海道など冷涼な気候条件下での放牧用として極めて適している。利用期間長く、利用年限も長く耐寒性も比較的強い。

★ミルカ

北海道十勝地方など地下凍結の著しい地域で冬枯れが少く、永続性良好であり、また再生力、収量もすぐれている。高温乾燥には弱く夏枯れを生ずるので、主に寒冷の厳しい地域での放牧利用に適する。家畜の蹄傷害に対しても比較的強いようである。

★カリフォルニア・ラデノ

葉身、葉柄ともに巨大で立性であり、再生力旺盛で刈取利用にも適する。匍匐茎の蔓延力は前2品種ほど旺盛



ニュージーランドホワイトクローバ



カリフォルニア ラデノクローバ

ではないが、整一性良好で多収であり、耐暑性耐寒性ともに比較的抵抗性を示し、日本全域に広く用いられている。放牧・採草兼用型品種である。